

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	42	災害に負けないまち、くさつ	草津市
アイデア名 (公開)	アナログをデジタルで伝える		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	災害バスターズ		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	岡田尚之	

#### ※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

#### (注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

私たちのアイデアは、

“避難所を拠点に、被災者、避難所運営者の双方が

アナログで迅速かつ的確に情報を集め、デジタルで市に伝える”です。

災害時、被災者はできるだけ自宅に避難する。しかし、自宅に滞在することが困難な場合、避難所に避難せざるをえない。また、避難所へ避難することは、被災者の状況としては支援が必要な確率が高い。なので、場所を避難所に設定しました。

市民や地域の人々の状況の把握、道路状況、人命救助、物資の有無などの情報を的確に迅速に集めなければならない。情報収集の手段として、避難所に、大きな紙に複数枚用意する。情報の項目ごとにまとめることで、書く側（被災者）、伝える側（避難所を運営している人）の双方が書きやすく、伝えやすいようにする。その情報をLINEなどのSNS、または市の防災無線で伝えることで、避難所と市をつなぐことができ、市民の不安などを取ることができる。

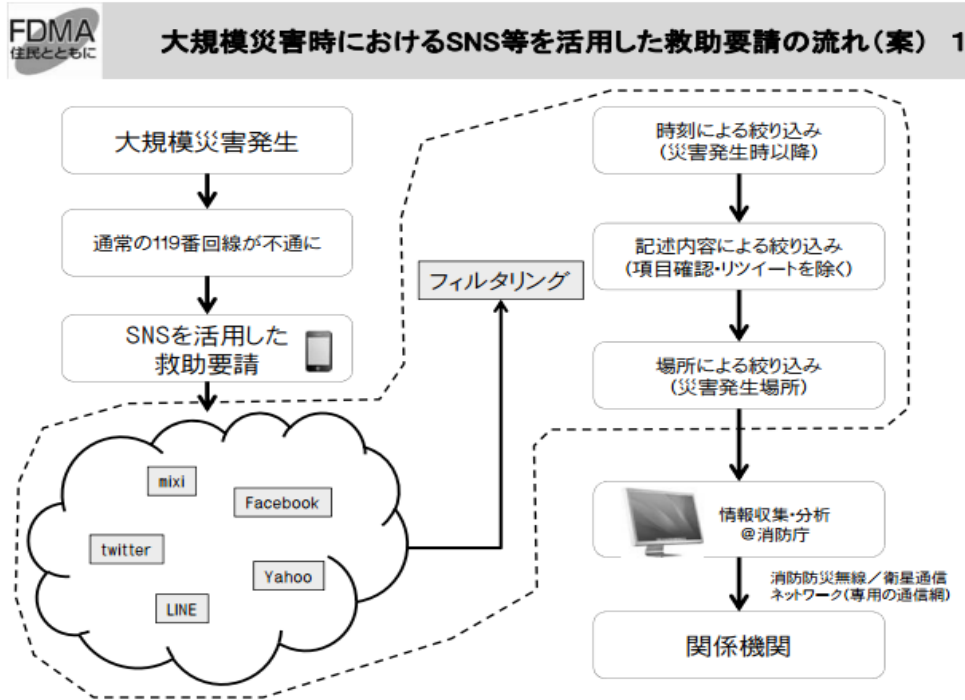
草津市の課題：

- ・避難所にいけない人の情報をどう集め、伝えるか。
- ・このアイデアの周知。
- ・紙を避難所に備蓄しておく必要がある。

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつづご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

緊急通報としての SNS の活用 消防庁情報室



[http://www.fdma.go.jp/neuter/about/shingi\\_kento/h24/sns\\_kinkyutsuhou/02/sanko01.pdf](http://www.fdma.go.jp/neuter/about/shingi_kento/h24/sns_kinkyutsuhou/02/sanko01.pdf)

被災時、電話回線は使えないことが多い。しかし、インターネット回線は、ほとんど使えることから今回のアイデアでは、インターネット回線を利用した SNS を使うことにした。

草津市の避難所の数

<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bousaianshin/bosai/hinansho.html>

草津市の人口

<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/tokei/jinkosuii/suii.html>

草津市で災害が起こったときの被害数と状況

<http://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bousaianshin/bosai/chiikibousaikeikaku/bosaichosa.files/4-7.pdf>

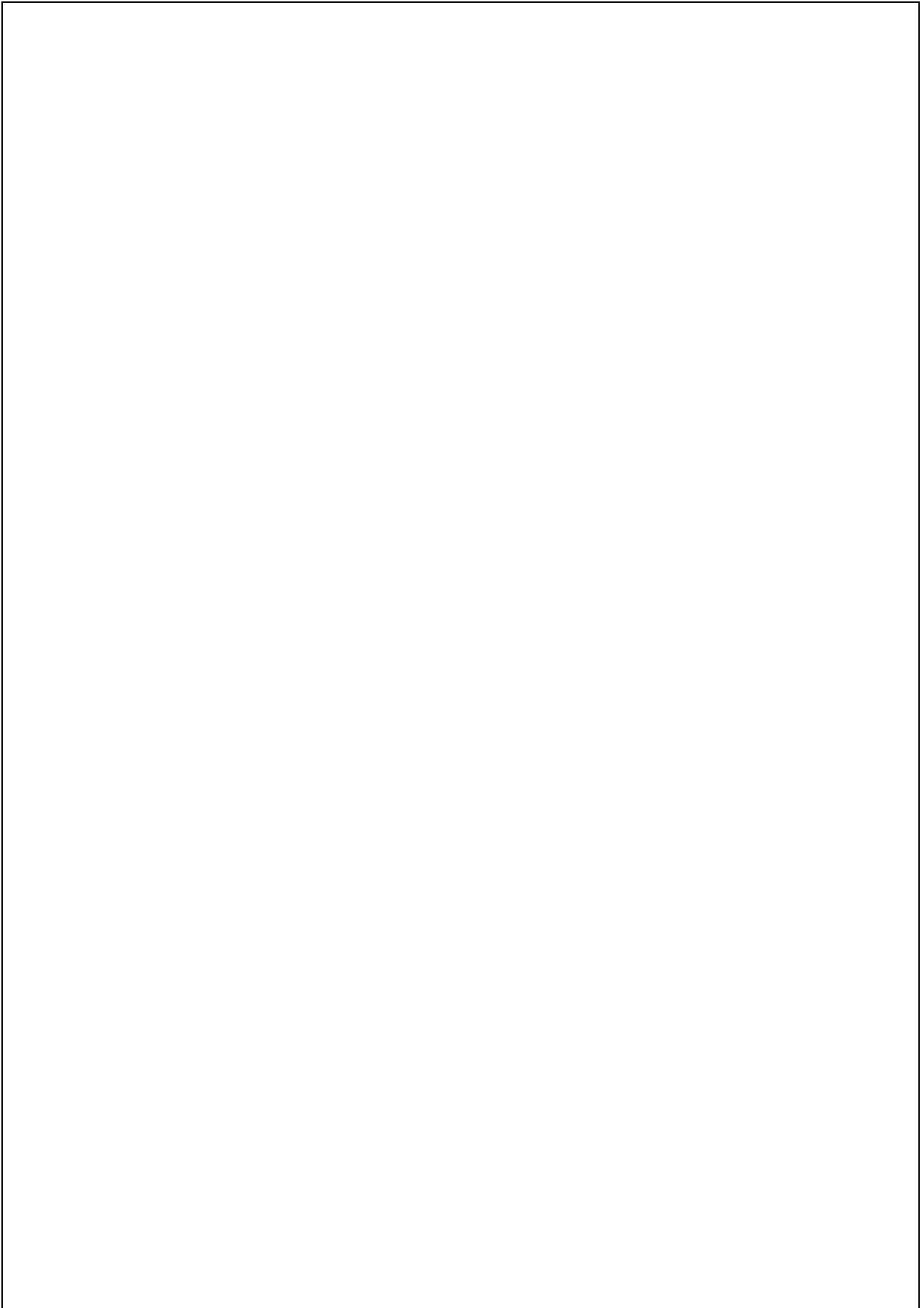
草津市の職員の数

<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/kaigishingikai/hokoku/chikijinkenbosaisomu/bosai.kaigi.files/32shokuinanketo.pdf>

これらのデータからわかるように避難所が 38 箇所、広域の避難所が 32 箇所であり  
草津市の人口が 13 万人、災害が起きたときの避難者がおよそ 1 万人  
職員の数が 600 人いるので、ひとつの避難所に 10 人、広域の避難所に 15 人の職員の方がいくことができる。（100 人は本社）

これらの避難所にまわせる人数はとても十分とは言えない。避難所では、約 200 人の市民を 10 人の職員でみることになる。

なので、効率化が必要になる。



### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

災害時に地域の人々の情報を知るために、地域の人たちには避難所へ来てもらう必要がある。

↓

避難所へ来た地域の人々は、避難所に設置している項目ごとに分かれた大きな紙へ伝えたいことを書く

※項目の例) 足りない物資 安否確認 道路状況 人命救助 など

↓

これを見た避難所運営者は、SNS や防災無線で市や自治会へ伝える

※項目ごとに分けているため、伝える優先順位が明確化

#### 【この案の課題】

- ・避難所へ行けない人の情報
- ・避難所運営者のデバイス【スマホ or PC】の確保とバッテリー問題

#### 【この案のアピールポイント】

- ・項目ごとに分けているため、情報の優先順位の明確化
- ・避難所で、地域の人が情報を書くため、周りの目があるので、嘘の情報が出にくい。
- ・伝達内容の報告の仕方が簡易であれば、職員の手を使わず、学生でもやることができる。

#### (4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的にxxという制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

このアイデアのアピールポイントとして、実際にその場にいる人の声を聞くことができるので、明確な情報しか来ないということが挙げられる。また、項目ごとに分けるので、優先順位が明確かつ迅速に伝えることが可能。

将来的に掲示板のアプリなど嘘の情報がない迅速で明確な情報伝達アプリができれば、さらに災害に対して意識が高まり、安心して安全な暮らしができると思う。